

地域密着型サービスの自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念に沿ってその人らしく暮らしていただけるように支援は行っているが、地域密着型としての理念はない。	○	地域密着型サービスとしての理念を新たに創る事により、さらに充実した支援ができるよう取り組んでいきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	当苑の介護理念に基づき、介護職員が実践に向けて日々、努力し取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム運営理念、役割、介護理念を通じて家族や地域の方々に理解していただけるようにパンフレット、ホームだより等を活用し取り組んでいる。	○	近年、周囲に住宅やアパートなどが次々と増えており、ホームへの理解を深めてもらえる様今後も取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	犬の散歩や運動等で苑の近くを通りかかられた時など気軽に挨拶を交わせるように日常的に努力している。	○	周囲に住宅が増えてきているので、誰でもいつでも気軽に立ち寄られるような又、言葉も交わせるような付き合いが出来るように努力も続けていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会や老人クラブ等への参加はしていない。年1回の11月の文化祭には出展や見学は実施している。	○	地域の一員として、活動に参加出来るように努力し取り組んでいきたいと思っているが、現状の中ではかなり厳しい部分が多く、難しい問題である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現状の中での具体的な計画も立てるのは難しい為、取り組んでいない。	○	運営推進会議の充実を図り、地域への参加、活動ができるよう努力し取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義は全員理解できていると思っているが、現況を重ね合わせると評価を充分活かさない部分も多々ある。	○	全てを改善することは現実的に困難であるが、1つずつでも前進出来るよう全職員で常に話し合い取り組み努力をしたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は実施しているが、内容の充実性がまだ足りないように考えられる。会議の内容（話し合った事）は月1回の合同カンファレンスの場で必ず報告している。	○	会議の内容の充実を図り、それぞれの意見がきちんとした形で反映できるよう取り組みたい。記録はしっかり取っている。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者が常々、本庁や総合支所に出向いては相談など行い連携を取っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居時必ず家族に対し、説明、情報を提供するようにしている。合同カンファレンスを活用し、全職員が制度の理解が出来るよう取り組んでいる。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、機会あるごとに話し合いを持ち、それぞれが注意を払い、防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>家族の方々にとってはお世話をしてもらっているからと言う遠慮されているところもあるかもしれないという気持ちを職員は常に感じ、家族との関係を保ち率直な意見や不満が言えるような雰囲気作りを取り組んでいきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は少しあったが利用者のダメージは殆ど見られなかった。正職からパートへの変更はありましたが、利用者の反応は別段変わらなかった。結婚退職された職員などは生まれた赤ちゃんなど見せに来てくれたりします。利用者の方もよこばれています。夕涼み会なども顔を見せに来て頂けるようにしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修や講習については、時間の許す限り各人参加をしていただいている。	○	実務研修などについては介護福祉士を取られた方には受けていただくよう勧めている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等で同業者の方々との交流はできていると思う。	○	今年からは、管理者、ケアマネジャーだけでなく職員にも参加していただこうと考慮している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会はあるがシフト性のため、その他のストレス軽減の機会を作る計画ができていない。	○	有休など取りやすい様に考慮している。出勤日数の多い日などは一斉有休をやることもある。これからも同じようにやっていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況は把握しているが、まだ、向上心を持って働いているかは努力が必要かと思う。 資格取得者には資格手当がつくようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	散歩時や時間に余裕がある時は出来る限り本人に寄り添う機会を作り、不安、不満など率直な言葉が聞けるように努力はしているが充分ではない。	○	利用者によってケアする時間が長く必要な方もおられ、一人一人ゆっくりと寄り添う時間を取る余裕の無い事が多く、職員間で機会ある毎に話し合いながら取組んでいきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	3ヶ月、6ヶ月の担当者会議時は必ず意見を求めるように努力している。それ以外に来苑された時など声掛けを行い、聞く機会をつくり努力している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネが良く話しを聴き管理者と相談の上、必要な支援を見極め対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他の利用者の方々と馴染みやすい機会を設けながら本人がどう関わっておられるかを見極め家族等と相談しながら徐々に馴染めやすい雰囲気作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方々一人一人を家族の一員と思い、喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を気づける努力をしている。又、人生の先輩であり日常生活の中で学ばせてもらう事も多く勉強になっている。		

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑（B棟）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の家族の中には諸事情があり、余り深く関わりを持ちたくない家族もおられる為、全員の家族との支えあう関係を築くのは難しい。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	諸事情のある家族に対して、出来る限りの支援を行い良い関係が築けるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、親しんだ場所との関係が途切れないよう、家族、地域の知人への協力を得られるように支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う利用者同士の関係を見極め、利用者同士が関わり合い、支えあえるように協力しているが、育った環境の違いで全く合い入れない方もおられ、難しい所もある。	○	孤立させないように職員がどうかかわり、支援するべきか日常的に職員間で話し合いながら他の利用者との良い関係が築けるよう支援していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者や家族に対して常に連絡を取り合う努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議等に意向の把握をしている。一人一人に合わせたサービスを提供している。散歩、ドライブ、台所仕事、洗濯物取り入れ・運び、レクリエーション活動、日光浴等。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、友人の面会時に尋ねている。散歩しながら畑の作物を見、生活歴など聞いている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のバイタルチェック、一人一人の行動記録、ケアプランによる援助を行い、朝、夕のミーティング時に引き継ぎ確認している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、担当者、看護師、管理者、本人、ケアマネジャーとカンファレンスを持ち、利用者本位の介護計画を作成している。月に1回、担当者とケアマネジャーとのモニタリング。3ヶ月に1度、短期目標の見直し、6ヶ月に1度の担当者会議を開催している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	骨折により状態に変化が生じた時は見直ししているが、風邪症状の場合は見直しはしていない。	○ 気分転換として月1回ドライブを続けている。今後も継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日のリーダーが毎日記録し、プランに応じた援助記録はケアマネがまとめ、状況を報告しケアに生かしている。特に担当者には実践してもらうようにしている。	○	プラン通り（頻度）実施できた時は賞賛し、介護者がより意欲的に援助ができるよう工夫していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所は多機能型ではない為、地域密着型の共同生活介護しかできない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・月、一回紙芝居のボランティア ・年一回、保育園児の慰問 ・年一回、文化祭出展、見学 ・老人クラブより雑巾、タオルの寄贈 	○	今後も地域資源との協働が維持出来る様に努力していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状では他のサービスは活用していない。（地元の利用者が多く、環境の変化は精神安定の面で不安があると思われる。）		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	センター主催の勉強会等に出席し、協働している。		

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑（B棟）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を重視、納得が得られたそれぞれのかかりつけ医がある。かかりつけ医との関係は良く気軽に相談ができる。市立田野HP、高宮HP、早稲田HP、小村歯科		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症が重度化した場合は主治医に相談し専門医へ紹介して頂き家族への説明もして頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	各ユニットに看護職員が従事している。他の職員と連携を常に取り、日常の健康管理、医療活用の支援をしている。毎日AM10:00バイタルチェックを行い、健康状況の把握、それ以外、異常を感じた時はバイタルチェック後かかりつけ医に連絡を取っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院に向けてのかかりつけ医との連携や相談は行っている。入院後1ヶ月は猶予している。それ以外については家族と事業所との相談になっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現、方針では入院加療としている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化に備えて検討し、協力医療機関とも相談を行ったが緊急時医師の確保が困難の為現時点ではできない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族、本人に充分説明し、納得をされた上で別の居所へ安心して移れるように支援している。(その際、状況提供書をお渡ししている。)		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの利用者に合った言葉かけや対応を行いプライバシーを損ねないように心がけている。記録時必要な場合は、アルファベットの頭文字や他利用者と記録をし配慮している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	時間がある時は利用者にてできるだけ寄り添い思っている事、希望を聴きだせるように、又、表情的に表すことができるように支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にするように心掛けている。しかし、午前中は利用者同士、職員との交流を図る為時間を頂いている。(バイタルチェック後、健康体操や外気浴、散歩、ボール遊び、歌等に参加して頂いている。)		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	女性の利用者の方はほぼ自立されており身綺麗にされている。男性の利用者の方もわりと身綺麗であり、必要あれば声掛けで行われる。理容は家族、本人の了解の元、苑の職員が2ヶ月に1回カットを実施している。他の利用者は定期的に馴染みの美容室へ行かれる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り、一人ひとりの好みを取り入れる努力をしながらメニューも考え、四季折々の物を提供するように努めている。又、利用者の力を活かしながら、食材の刻み方、盛り付け等工夫して職員と共に楽しんで食事の準備など手伝っていただいている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・煙草は禁煙とさせて頂いている。 ・アルコールは花見の時、希望される利用者の方には提供している。 ・10時のお茶の時間、牛乳も提供。15時のおやつは果物、団子類提供。コーヒー、紅茶等も提供することもある。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・便意、尿意ある方がトイレへの声掛け、誘導にも拒否をされる方、自らトイレに行かれるがつい失禁される方とさまざまな状況でリハパンツ使用者4名おられる。 ・夜間のみアテント使用者1名おられる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・当苑では隔日入浴で午後2時から実施(4名、5名に分けて入浴)時折、利用者の方々に夜間入浴の問いかけをするが、今の所希望者はおられない。 ・一人ひとりの入浴であり、プライバシーは保っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日常生活の中でメリハリをつける目的、健康維持目的の為、午前中のみ10時お茶後、リハビリ体操をし、散歩又天候に依りボール遊び、パターゴルフ、廊下での歩行運動を実施している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれ利用者の方々には、その人にあった役割分担をお願いしており、いつも快く手伝っていただいている。(テーブル拭き、畳の間のクイックルワイパー掛け、台所の手伝い、米とぎ、盛り付け、洗濯物取り入れ・運び、洗濯物畳み) ・トランプ遊び(ババ抜き)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・たまに利用者の方2～3人伴って車でスーパーや衣料品店などに行くこともある。 ・紅葉狩りの時売店などで数人の方にお金（500円～1,000円）持たせ買い物をして頂いているが中には全く関心を示さない方もおられる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月一回、理事長の協力を得てドライブに交代で連れて行ってもらっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・春は町内の運動公園で花見 ・秋は文化会館へ行き文化祭見学と紅葉狩り、その年で行く場所が変わる事もあり、皆さんいつも喜んでおられる。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話は希望あればいつでも対応している。 ・手紙は殆どの方が出そうとされないし、希望もない。（書くことを嫌がる方もおられる。）		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	雰囲気が明るくなるように努力し、どなたでも気軽に来苑して頂けるように努めている。（室内を明るく保ち、空気清浄機、加湿器を使用したり、観葉植物、置物、作品を展示して和める雰囲気作りをしている。）		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむおえず、棟入口を施錠する時もあるため、各利用者の家族に説明を行って同意をもらっている。	○	現在、一人だけ目が離せない方がいる為、棟入口の施錠をせざる得ない時もあるが、出来るだけしない方法で頑張っている所である。

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑（B棟）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・居室はかけていない。 ・鍵をかけない努力はしているが棟の利用者によっては何度も苑外に出られ、危険な目に合いそうになる方もいる為、やむお得ずかける時がある。弊害は職員、充分理解している。	○	鍵をかけない努力をしている。いつも外へ出ようとされる利用者がおられない時は全く鍵を掛けないで過ごして頂く様に努めている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に目配りしながら様子の把握に努め、安全にも配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・危険を防ぐ努力は常にしている。 ・但し、台所用洗剤については常時使用する為いつも出したままの状態である。	○	利用者に添った対応が出来るように常に気配りを怠らないように取り組んでいきたい。（現状では今はそのような方はいない）
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・転倒しやすい方、誤嚥しやすい方、苑外に良く出ようとする方に対し、それぞれの意識、知識を持ち、事故防止に努力している。 ・全員が服用があり、誤薬防止にも努力している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・基本マニュアルは作成しているが、何事もなく日々過ごしているとつい忘れがちになる事もある。定期的訓練は根づいていない為、今後も取り組み必要を感じる。	○	急変や突発的の事故発生時どうしても慌ててしまう事もある為、定期的な勉強会後必要であり、継続した取り組みをしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・火災時、直通で連絡できるようになっている。 ・災害時、地域の人々の協力を得るまでには至っていない。	○	・近年、周囲に住宅が増えたのを機に少しずつでも馴染みの関係ができるよう、努力して協力が得られるように取り組んでいきたい。 ・前回より火災訓練の記録はするようになっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・感染マニュアルがあり、その都度対応出来るように努めている。 ・インフルエンザについては、毎年職員を含めインフルエンザワクチン接種して頂いている。	○	・日々の手洗い、うがいは徹底していたが今年1月、インフルエンザに3名かかられた。今後、より一斉の徹底化を図りたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・食材は毎日買い物に行き、作り置きをせず、常に新鮮なものを使用するように努めている。 ・夏場は余り生ものは提供しない努力をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関周囲は広々としており、プランターに花も植えてある。 ・いつでも気軽に出入りができるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ホール(食事兼ねた)で居心地良く過ごして頂く様にソファ、CDラジカセ、TVを備えており、ビデオを見たりしていただいている。 ・季節の花を飾って季節感を感じて楽しんでもらっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールではソファに座ったり、畳の間に上がって横になったり、座ったりされてくつろいでいる利用者もおられる。家庭的な雰囲気ができるよう努め飾り付けにも工夫し配慮している。（行事の時の写真など見たりされ嬉しそうにしておられる方もいる。）		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具、テレビや生活用品等を持ち込 んでいる。（ダンス、イス）	○	利用者によっては全く馴染んだ物を持ち込んでお られず、家族の面会時等に声掛けは行っているが 余り効果を得ていなが、さらに継続をして声かけ していききたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	空気清浄機(加湿機能付)を設置しているが、天 候が良い時はまめに自然な空気を取り入れたりし ながら配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	・要所々に手摺が設置され、床はバリアフリーに なっており、安全に生活出来るよう配慮してい る。 ・夜間はセンサー式、証明が設置してあり安全に 歩行できるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室を間違われる利用者の方には居室の入口に名 前を入れているが、それでも他の居室を覗いたり される為、その都度誘導、対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	中庭はあるのだが、風が強い時は風が巻き、ほこ りが立ち、過ごすことができなく活用が難しい。	○	玄関にベンチを置き、外気浴をしたり、となりの 櫓の利用者の方々とお喋りしたり、歌も一緒に 歌ったり楽しく過ごせる場となっている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)